資料１－１

# 山鹿中央病院が担う役割について

平成30年12月4日
医療法人春水会 山鹿中央病院

# 1. 現状と課題　理念・基本方針

## 当院の基本理念

医療・福祉を通して、社会に貢献しよう

## 当院の基本方針

・充分な医療情報提供を行い、患者様の権利を尊重します
・安全の確保とサービスの向上に努めます
・医療、看護、介護の内容・質の向上に努めます
・ニーズに合った保健・医療・福祉を実践し、地域に信頼される病院になります
・働きがいのある健全な職場を創造します

# 1. 現状と課題　基礎情報

## 基　礎　情　報

### 病床数　120床

一般病棟　60床

・急性期一般入院料7　45床

・地域包括ケア入院医療管理料1　15床

療養病棟　60床

・療養病棟入院料1　42床

・回復期リハビリテーション病棟入院料3　18床

### 平均在院日数

一般病棟16.8日　　療養病床221日

### 主な病院機能

救急告示病院、二次救急医療機関、更生医療指定医療機関
自立支援医療機関（更生、育成、精神）、肝炎治療実施医療機関
脳卒中急性期拠点病院、脳卒中回復期医療機関

# 1. 現状と課題　基礎情報

## 基　礎　情　報

### 主な在宅機能等

訪問看護ステーション、訪問看護ステーション・サテライト(鹿北町)
指定居宅介護支援事業所、訪問介護ステーション
訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション
サービス付き高齢者向け住宅、在宅療養支援診療所(19床、透析35床)

### 主な施設基準

救急医療管理加算、救急搬送看護体制加算
がん性疼痛緩和指導管理料、在宅がん医療総合診療料
在宅療養支援病院、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
在宅酸素療法指導管理料、人工腎臓、地域包括診療料
冠動脈CT撮影加算、認知症ケア加算、歩行運動処置(ロボットスーツ)
糖尿病透析予防指導管理料、肝炎インターフェロン治療計画料
運動器リハ、呼吸器リハ、脳血管疾患等リハ、その他

# 1. 現状と課題　基礎情報

## 基　礎　情　報

### 診療科目　14科

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科
腎臓内科、脳神経内科、心療内科、形成外科、皮膚科
アレルギー科、リウマチ科、放射線科、リハビリテーション科
(腎透析センター 45床）

### 主な医療機器

CT (64列) 1台、MRI (1.5テスラ) 1台、透視撮影装置　1台
内視鏡検査装置 2台、人工透析装置 45台
ロボットスーツHAL(下肢タイプ) 2台、超音波検査装置 2台
人工呼吸装置 3台、その他

### 職員数　271.6名（常勤換算　10月1日現在）

医師 13.8名、薬剤師 7.4名、看護職 97.5名、保健師 3名、臨床検査技師 7名
診療放射線技師 5名、臨床工学技士 6名、理学療法士 10名、作業療法士 7名
言語聴覚士 2名、社会福祉士 4名、管理栄養士 4.6名、介護職 24.7名
診療情報管理士 2名、介護支援専門員 5名、訪問介護員 5.4名、その他 67.2名

# 1. 現状と課題　自施設の現状

## 当院の紹介率、逆紹介率、救急患者数

| | 期間：17年7月～18年3月 |
|---|---|
| 紹介率 | 29.2 % |
| 逆紹介率 | 36.5 % |
| 救急患者数 | 619 名 |

※指標の定義

紹介率 ＝ 紹介初診患者数 + 初診救急患者数 / 初診患者数

逆紹介率＝逆紹介患者数 / 初診患者数

# 1. 現状と課題　自施設の課題

## 1. 関係機関との連携強化

当院は、急性期一般、地域包括ケア病床、回復期、医療療養を有している。高齢者の増加に伴い、認知症を合併し、要介護度も高い患者が増加傾向にあることから、ケアの内容も複雑化しており、退院支援が困難な要因のひとつとなっている。このようなことから、かかりつけ医や他医療機関等とのスムーズな連携・調整を図っていきたいと考えている。

## 2. 在宅医療の充実

当院では、主に難病患者を対象とした訪問診療を行い、訪問看護ステーションとも連携しながら在宅医療に力を入れている。

しかし、医師不足や住民への在宅医療に関する情報提供が未だ不十分だと感じており、尚一層の住民への周知と理解が必要であろう。

そして今後益々、在宅医療の流れが進む中で、在宅療養支援病院としての役割を十分に果たしていくことが必要である。

# 1. 現状と課題　自施設の課題

## 3. 病棟再編

当院は、移転して20年目を迎えている。この期間に渡り、様々な改正による施策や経営方針に沿った地域医療への取り組みを行ってきたが、病棟の再編や構築などに支障をきたし始めており、患者満足度の高い療養環境の提供が困難な状況となっている。

さらに関係職種の増加や専用室の確保も限界に達しており、地域に果たす役割を見据えたソフト面、ハード面を今後見直していく必要がある。

# 1. 現状と課題　自施設の課題

## 4. 当院の担う政策医療（5疾病5事業及び在宅医療に関する事項）

| | |
|---|---|
| **がん** | 特に消化器内視鏡による早期がんの治療(ESD)に取り組んでいる。また血液がんについては専門医(非常勤)の配置とともに熊大病院との連携を図っている。今後その他のがん疾患への対応の充実を図りたい。 |
| **脳卒中** | 専門医2名及び熊大病院からの派遣医師により、脳卒中、脳梗塞の治療(t-PA)に取り組んでいる。夜間休日では医師の不足により受入体制が十分とは言えない。 |
| **急性心筋梗塞** | 専門医1名が在籍しているが、薬物療法が中心であるため、カテーテル治療は行えていない。ただし、画像診断装置による早期診断への体制を整えている。 |
| **糖尿病** | 専門医1名が在籍しており、糖尿病治療、透析予防やプロジェクトチームによる様々な取り組みを積極的に取り組んでいる。患者の増加により専門医の不足が課題である。 |
| **精神疾患** | 認知症サポート医2名が在籍しており、認定看護師含め活動の強化を図り、認知症初期集中支援チームへの協力体制の強化に努めている。心療内科が休診中であり、専門医の確保が課題である。 |

# 1. 現状と課題　自施設の課題

## 4. 当院の担う政策医療（5疾病5事業及び在宅医療に関する事項）
## 5事業のうち主に2事業を担っております。

| | |
|---|---|
| **救急医療** | 24時間365日、救急医療機関として積極的な受入れに取り組んでいる。疾患によっては対応困難事例もあるため、総合医の確保が望まれる。 |
| **災害時における医療** | 透析の災害時対策により熊本地震での大きな被害を免れ、被災病院の透析患者の受入れを行った。またJMATを編成し被災地への支援活動に取り組んだ。BCPの策定に向けて準備中である。 |

# 2. 今後の方針　地域において今後担うべき役割

当院は、当圏域における救急告示病院として、急性期、回復期、慢性期の機能を担っている。
今後、地域で見込まれる医療需要を的確に捉え、民間病院としての使命をいかに果たしていくかが大きな課題となっている。
山鹿市においても人口減少、高齢化が進む中で、持続可能な病院経営を行うために何が必要なのかを拾い上げ、医療提供体制の再構築を図る。

## 1. 在宅医療の体制を充実させる

今後、在宅に向けた医療の提供を強化していくために、医療従事者の育成とともに医師の人員体制を充実させ、他医療機関のかかりつけ医との連携強化と勤務者の負担軽減対策を図りながら、当圏域内での役割を果たす。

## 2. 急性期医療を担う

救急受入れに関して断らない医療を更に推進し、当圏域内の救急医療の一役を担っていく。
さらには在宅療養支援病院として、連携医療機関との協力体制の強化を図り、在宅療養の後方支援の役割を果たす。

# 2. 今後の方針　地域において今後担うべき役割

## 3. 脳卒中

当圏域における死亡率が高く、早期発見や予防・改善に向けた取り組みが重要である。専門医が在籍しており、関係機関との連携を図りながら機能の充実を図る。

## 4. 難病

難病に特化した取り組みを行っており、専門医や難病看護学会認定看護師の育成に力を入れている。

当圏域のみならず、圏域外の関係機関からの要請にもできる限り応えていき、地域が求める適切な医療を提供する。

## 5. 糖尿病

在籍する糖尿病専門医の指導のもと、増加が予想される糖尿病分野への地域のニーズに応えるため、プロジェクトチームにより医療活動の積極的な取り組みの強化を図る。

## 6. 人材育成と活用

地域医療の質向上を目指し、専門医の他、認定看護師(感染、認知症) を育成し地域活動を行っている。また、緩和ケア認定看護師を現在育成中である。これらの人材が地域医療に貢献できるように積極的な取り組みの強化を図る。

# 3. 具体的な計画　(1)今後提供する医療機能に関する事項

## 【①4機能ごとの病床のあり方　その1】

| 病床機能 | 2017年<br>(平成29年) | 2023年<br>(平成35年) | 2025年<br>(平成37年) |
|---|---|---|---|
| 高度急性期 | 0 | 0 | 0 |
| 急性期 | 60<br>(地域包括ケア病床15床含む) | 65<br>(地域包括ケア病床20床含む) | 65<br>(地域包括ケア病床20床含む) |
| 回復期 | 18 | 18 | 18 |
| 慢性期 | 42 | 37 | 37 |
| その他 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 120 | 120 | 120 |

# 3. 具体的な計画　(1)今後提供する医療機能に関する事項

## 【①4機能ごとの病床のあり方　その2】

### 1. 急性期病床

今後もこれまで同様の救急医療機能を維持しつつ、在宅復帰の推進、並びに地域包括ケアシステムの構築に貢献していく。

さらに当圏域で死亡率1位と高い状況であるがんや難病、末期心不全に対して、患者やその家族の身体や心の辛さを和らげ「その人らしい生き方」をサポートできるよう、将来の病棟増改築に向けた再編成の検討を進める。

### 2. 慢性期病床

医療度の高い神経難病等の患者受入れや在宅医療支援を行い、さらに地域のニーズに応えるために、体制の維持、強化を図る。

### 3. 回復期病床

当圏域で不足するとされる回復期の病床を担うため、高次脳機能回復・運動機能回復に努め、その役割を果たすための機能拡充を図る。

# 3. 具体的な計画　(1)今後提供する医療機能に関する事項

## 【②診療科の見直し】

| | 現時点<br>(30年7月時点) | 2025年<br>(平成37年) | 理由・方策 |
|---|---|---|---|
| 維持 | 内科、呼吸器内科、循環器内科<br>消化器内科、糖尿病内科<br>腎臓内科、脳神経内科、心療内科<br>形成外科、皮膚科、アレルギー科<br>リウマチ科、放射線科、リハビリテーション科 | | |
| 新設 | | 腫瘍内科<br>整形外科 | 死亡率が上位である疾患と回復期におけるリハビリ機能の充実 |
| 廃止 | | | |
| 変更・統合 | | | |

# 3. 具体的な計画　(2)数値目標

| | 現時点<br>（平成30年4月時点） | 2025年 |
|---|---|---|
| ①病床稼働率 | 89.6% | 94.0% |
| ②紹介率 | 29.2% | 40.0% |
| ③逆紹介率 | 36.5% | 50.0% |

# 3. 具体的な計画　(3)数値目標の達成に向けた取り組みと課題

## 1. 救急医療体制の充実

現在、当圏域には救急告示病院として4病院が指定を受け、二次救急の対応を行っている。

他圏域への流出率が他医療圏と比べ、高い数値となっており、救急医療提供体制のさらなる充実が必要であろう。

当院は、当圏域内で中核的役割を担う民間病院であるものの、常勤医や当直医の確保については未だ不十分と思われる。現在、診療体制についてはある程度整えられてきているが、さらに救急受入体制を強化していくことが今後の重要課題である。

そのためには、救急医療を担える医師の確保及び看護師、コメディカルのスタッフ確保と質の向上が不可欠である。

# 3. 具体的な計画　(3)数値目標の達成に向けた取り組みと課題

## 2. 在宅医療の充実

現在、急速な高齢化社会により、自宅や地域で疾病や障害を抱えつつ生活を送る患者が増えている。これによりQOLの向上を重視した医療への期待が高まり、在宅医療へのニーズが増加し、多様化している。

当院の今後の在り方として、中・長期的な視点に立って、在宅患者訪問診療、往診、訪問看護、訪問リハビリの更なる充実・強化を図る。

## 3. 災害医療体制の整備

当院は平成28年熊本地震を経験しJMAT（災害派遣医療チーム）を編成し関係機関の要請により出動できる体制を整備した。

災害などの有事に備え、行政、他医療機関との連携を十分に図りながらJMATを維持し、透析患者を含めた緊急入院の応需体制を整備していく。

# 4. その他特記事項

## 1. 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割

重度な要介護状態となっても可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域の包括的な支援体制の構築が重要である。

当院は、急性期から回復期までの病床機能の充実、訪問看護ステーションなどの在宅事業所の強化に努めていく。加えて、健診センターの充実によって予防医療提供体制を強化していく。

今後、地域包括ケアシステムの構築に向けて、当院の総合機能を活用して関係機関との連携強化を推進すると共に、当圏域の中核病院としての役割を担う。

# 4. その他特記事項

## 2. 地域住民の理解と協力

出前講座や市民公開講座、グランドゴルフ大会といったイベントなどを通し、地域住民との交流を深める。地域医療の在り方や、民間病院が担う医療機能などについても、地域住民に理解して頂くよう努める。